



電子書籍

映画

発行元は大日本映画事業联合会※。復刻版

東宝、新興キネマ、日活など各映画会社の広報雑誌を統合して発行された。戦時統制により「新映画」（映画出版社）と「映画之友」（映画日本社）の2誌に統合された映画専門雑誌と歩調を合わせ、1941年1月に創刊された。各会社より編集員を派遣し、新しき日本映画の全貌の紹介を目指した。

※映画法の実施にあたり、松竹、東宝映画、日活、新興キネマ、大都映画、大宝映画、南旺映画、東京発声、全勝映画などの映画会社21社により形成された団体。

映画は弾丸である

映画のもつ普遍性、
教化性、宣伝性は
文化戦に於ける
最も有力なる尖兵
である。

合同会社 かかし

107-0062
東京都港区南青山 2-2-15
winAoyamaビル UCF6F
tel:03-6403-5803
contact@kakashi-ebook.co.jp

<https://kakashi-ebook2024.net>

プラットフォーム

 **KinoDen**
Kinokuniya Digital Library

株式会社紀伊國屋書店 デジタル情報営業部
ict_ebook@kinokuniya.co.jp
〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10
電話 03-6910-0518

かかし

映画

月1回発行／B5版

1941(昭和16)年1月1日創刊号第1巻第1号～

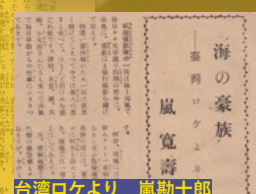
1943(昭和18)年12月1日終刊号

第3巻第12号までの36冊を全て復刻。



「大衆のもの」から「国民のもの」となった日本映画。満映、中華映画及び、当時の共栄圏内の映画界の指導的立場として、新領土内の視察や研究を各社が行い、共栄圏内で演出、撮影、編集、技術を指導し製作された作品を「映画」は紹介した。

会員は、松竹、東宝、日活、新興キネマ、大都（1942年に日活製作部門・新興キネマ大都是大映に合併）、南旺、東京発声、全勝、宝塚映画製作所、極東キネマ、朝日映画、KSTオーキ、製作所、芸術映画、理研科学映画、富士スタジオ、富士写真フイルム、小西六、長瀬商店、極東現像所、横浜シネマ商会、ローラーカンパニー、ビクターローヤル、日本光音工業、精機製作所。



解説 ● 佐崎順昭
独立行政法人国立美術館
国立映画アーカイブ映画研究

会社名	●主な映画製作会社と特色
松竹	特に現代劇において庶民の生活や情緒を描く「蒲田調・大船調」と呼ばれるモダンで都会的な作品を製作した。
東宝映画	伝統的な撮影所システムとは異なり、近代的なスタジオ設備と、喜劇や音楽映画といった新しいジャンルで日本映画界に新風を吹き込んだ。
日活	日本最古の映画会社。京都に主要な撮影所を持ち泥臭さと土着性を特色としていた。時代劇が中心ではあったが、戦時下にあってもリアリズムを重視した作品を制作していた。
新興キネマ	松竹系列。前身は帝国キネマ演芸。太秦の伝統的な時代劇と、大泉撮影所（のちの東映東京撮影所）での現代劇の2本柱で、松竹・日活に次ぐ規模を誇った。
大映映画	1942年小規模企業を整理・統合する内閣情報局の指示によって、新興キネマおよび日活の製作部門と合併して誕生した。
大都映画	「幻のB級」とも称され、スピーディーで低コストながらも面白い映画を量産し、大手とは異なる支持を得ていた。また、徹底した低コスト製作で一度も経営危機にはならなかった。
南旺映画	東宝系列。主に教育映画や、高峰秀子を主演に迎えた明るい青春映画などを製作した。
東京発声	日活資本が設立したトーキーに特化した映画製作会社。のちに東宝資本に換わり、現在の東宝を形成する流れに合流した。
全勝映画	主にチャンバラ映画（時代劇）を中心に製作・配給していた。

- 映画国策の優秀第一主義に協力し、どの会社の作品たるを問わず、優良なる映画の紹介に徹した。
- 対談や座談会、映画の批判分析、新鋭及び熟練作家の文章、演技雑感など映画会社の強みを生かした読物が充実していた。
- 東亜共栄圏確立のもと、世人の注目が大陸に注がれている際に、大陸ロケ満載の特集をグラビアや記事で読者に届けた。
- 戦火の拡大において、最大の魅力であるグラビア頁の提供ができなくなる雑誌が多い中で、撮影所を持つ業界の強みでグラビア頁を守り続けた。



大都映画が現地に贈った皇軍慰問行



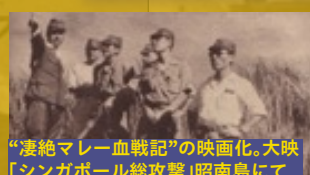
川中島合戦と元禄忠臣蔵の製作を対照する



東宝「阿片戦争」マキノ正博監督と原節子



対談 長谷川一夫・古川緑波



「凄絶マレー血戦記」の映画化。大映「シンガポール総攻撃」昭南島にて

● 同時アクセス数3の価格

● 分売可(詳細は公式WEBサイトをご参照ください)

配信回数	発行年月日	巻号	eISBN共通	セット販売価格(税別)
第1回	1941年1月1日～1942年2月1日	第1巻第1号～第2巻第2号	000-9	通常価格 ¥176,000 特価 ¥150,000 2027年5月末迄
第2回	1942年3月1日～1943年12月1日	第2巻第3号～第3巻第12号	978-4-86869-005-4	通常価格 ¥176,000 特価 ¥150,000 2027年5月末迄

※販売対象機関:全機関